

2020年2月25日
日本ガス協会

日本ガス協会 広瀬会長 会見発言要旨

1. 「新型コロナウイルス感染症対策本部」の設置について

中国武漢で発生した新型コロナウイルスは、1月以降、日本でも感染が拡大する中、2月17日に加藤厚生労働大臣が、「一人一人の予防対策・体調不良時の対応」や「イベント・行事の参加・開催時の感染拡大防止に向けた対応」についてメッセージを発信した。このあたりを境に、日本における本ウイルスのステージが変わったことから、日本ガス協会として、「新型コロナウイルス感染症対策本部」を2月17日付で立ち上げた。

それまで日本は、国内にウイルスを入れないという水際対策を行ってきたが、先週の段階で、水際対策から、ある程度感染が広がるという前提のもとどう対応していくかというステージに移行したと感じている。この状況変化を受け、ガス協会として対策本部を設置したものである。既に対策本部等を設置して対応しているガス事業者もあると聞いているが、業界大でも取り組む必要がある。

我々の最大の使命はガスの安定供給であり、これを阻害するような要因に対する事前対策や、万が一の事態が発生した場合の業界としての対応等をこの対策本部で検討していく。まずは政府・関係機関の情報収集や、会員各社への情報提供、問い合わせ対応等を実施する。また、ガス協会本部で会員各社が集まる会議の実施可否等についても検討する。

2. 「供給セキュリティ対策本部」の設置について

東京オリンピックまで5ヶ月、パラリンピックまで6か月を切ったが、過去のオリパラを振り返ると、この頃からサイバーテロが増える傾向にある。

今までも各事業者は対策を進めてきているが、業界大でこれらに対処し、競技開催エリアのみならず、全国の都市ガス供給が滞りなく継続できるよう、2月21日付で日本ガス協会内に「供給セキュリティ対策本部」を設置した。設置期限はパラリンピックが閉会する9月6日までである。

いずれの対策本部も安定供給という最大の使命を全うすることを目的に設置したものであり、その意味では今後両本部が連携することも出てくると思うが、ガス業界として万全を期していきたい。

以上